

|| 市民懇談会実施結果報告

① 開催日時等

回数	日にち	時間	場所
第1回	令和4年8月27日(土)	13時～16時	市役所2F 大会議室
第2回	令和4年9月25日(日)		
第3回	令和4年10月29日(土)		
第4回	令和5年2月5日(日)		

② 参加者(敬称略、50音順)

大倉 俊輔、大林 俊一、尾原 正豊、嘉地 好治、小島 のどか、左子 優子、須江 康司、杉元 佑合奈、関元 崇志、垂井 美由紀、仁木 傑、西本 真弓、春名 久美子、春名 成実、福島 翔吾

③ 実施手法

無作為等で選出した15名の市民が、まちじゅう博物館構想に必要な率直な意見、要望、また、構想を具現化するために必要な考え方、施策、事業等について、ワークショップ型式で論議し、検討結果を構想に反映した。

④ ファシリテーター

協同組合岡山情報文化研究所専務理事 伊藤博則 氏

⑤ 協議結果

第1回 テーマ まちじゅう博物館構想の説明を聞いた感想・質問・気づき・アイデアなど

[感想・指摘]

- 博物館ってなに?と思ってしまう。万博のようにイメージできた方がよい。
- インバウンドを進めたいということなのか、定住促進を図りたいのか、単に地域を盛り上げたいという話なのか、ゴールが見えない。自分たちの役割がいまいちわからない。
- JRやバスでICOCAやPASMOが使えない。
- また寄りたくなる町をつくることが必要なのではないか。

[質問]

- ターゲットは誰?住民なのか、外部から呼び込むのか。
- ここで出た意見がどこまで反映されるのか。

[気づき]

- 50年津山に住んでいるが、町の歴史をほとんど知らないことに気づいた。魅力ある伝え方ができればと思う。

[アイデア]

- 若者・高齢者など、いろんな属性の方が交流できる場を創ればよいのではないか。
- 子どもから大人まで町の歴史を楽しく知ることができる、体験の場が街中にあればいい。
- もっと町を「高級化」したい。いい泊まるところ、いいお土産、いい食事など、心に残るような体験ができれば街の底上げになる。
- 食べ歩き、飲み歩きしながら商店街を歩いて、アルネに行かず曲がって津山城に行って、そこでもうひと遊びできるような、歩き甲斐のある町になるといい。
- 古いものに価値があると思う。新しいものを作ることは難しい。
- 細い道に車の交通量が多いと感じる。もう少し減らせば歩きやすい。自転車やバイクの方が合っている。
- 歴史を知らないという声が多かった。「つやま検定」にもっと力を入れたらいいと思う。

第2回 テーマ「おたから」をいかしたまちじゅう博物館のイメージやアイデア

[イメージ]

- 古いものが保存されているというだけでなく、地域のなかに溶け込んで残っていることが魅力となる。土曜夜市や盆踊りを、新しい切り口で行ってはどうか。
- 町じゅうをテーマパークのように、統一したイメージづくり。

[アイデア]

- 徳守神社の神輿やだんじりが出る。津山まつりを全国有数のまつりとして発信する。
- お寺で話を聞いたり、坐禅や精進料理などの体験。
- 干し肉作りの体験。
- 自転車のまちづくり。コミュニティサイクルでまちめぐり。
- リズムジャンプ教室や自然の中でのヨガ教室など。
- 大人と子ども、津山の各地域の人と一緒に町の歴史や文化を学ぶ勉強会。学校の授業でもっと知る機会を設ける。
- 歴史があるというだけでは、住む動機にはならない。なにかやってみたい人に、空き家を活用してもらうのはどうか。
- 年齢性別にとらわれない、人の集う場所があればいいと思う。
- モノだけではなく、体験を買ってもらうようなふるさと納税の使い方。

第3回 テーマ① 市民に津山の「宝物」を知ってもらう方策

● 「ハッシュタグキャンペーン」

従来型の広報に加え、今はSNSの活用は必須。「#津山の〇〇」〇に入るテーマを変えながら何回もやることで、いろんなものに目を向けてもらえる。

● 「津山の記念日を作る」

市民から公募する。大きなイベントでなくとも、「干し肉を食べる」「お城に行く」など、市民のなにげない日常を記念日にする。なにか行動変容を起こすきっかけづくり。

● 「アルネ津山」

アルネを町の情報発信拠点にする。

● 「集約して伝える」

お宝の情報を一箇所に集約して、これを見ればすべてわかる、という場所を作る。

● 「日めくり津山カレンダー」

日めくりカレンダーを作り、SNSと連携して毎日紹介する。写真を公募し、年間一番採用された方を表彰する。

テーマ② 「宝物」を見出す・創り出す方策

● 「まち探検」

学校の夏休みの宿題、美作大学の学生(特に市外出身の学生)による探検、町内での探検行事など。

● 「活動を広く知らせる」

まち探検などは既にいろんな機会に実施されているはずだが、やって終わりになっている。やった結果を市民に広く知らせることが必要。

テーマ③ 必要な津山市の支援について

● 「金銭支援」

市民に協力をあおぐなら、市はしっかりお金を出すことが役目。

● 「データの提供」

まちづくりに関する市民や学生の活動を、実施報告だけでなくその内容まで情報を公開してほしい。

● 「制度設計」「関係機関への中継」

まちづくりの活動に対して、制度作りや仲介役などの面で長期的に伴走・サポートしてほしい。スピード感も大事。

テーマ④ 「津山まちじゅう博物館」のネーミングとキャッチフレーズについて

● 「暮らしほんもの」

● 「津山まちミュージアム」

● 「つややか津山 フィールドミュージアム」

● 「みんな見んちゃい来てみんちゃい わっしょい津山」 など

第4回 テーマ①「津山まちじゅう博物館構想案について」

- ここからなにが始まるんだろうか、最終的にどうなるんだろうかということを、施策・事業を展開する際には、具体的に示してほしい。
- なにか動き始めたな、変わってきたなど市民に感じてもらえるようにしないといけない。
- 関心をもって動いてくれる人たちの共感の輪を、諦めに変えることなく広げていかなくてはいけない。
- いろんな立場の人がそれぞれできる形で気軽に参加できるようにしたい。
- 成果を定量的に測ることも必要だが、幸福度指数のように定性的な効果も検証したい。
- 長期的な視点で、構想によってこんなふうに街が変わっているなど実感できる指標がほしい。
- 興味の薄い人にも楽しさが伝わるような進め方をしてほしい。
- チャレンジしやすいことを早く進めて、成功の道筋をつけることが必要。
- 全体的に表現が堅苦しい印象を受けた。
- マンガや動画にするなど、とっつきやすくするべき。
- 市民懇談会自体はよい取組だと思うが、意見が反映されているのか見えにくい。言っただけ、聞いただけにならないようにしてほしい。
- 構想を実際に動かしていくところにも市民が入っていくといい。
- 民間人をリーダーにしてはどうか。
- 表紙がかわいくてよい。

テーマ② 津山まちじゅう博物館構想のタイトル案とサブタイトル(キャッチフレーズ)

- 「津山まちじゅう博物館」
- 「津山フィールドミュージアム構想」
- 「津山未来遺産博物館構想」
- 「津山もりあげ博物館!つややか津山来てみんちやい!」
- 「フューチャーミュージアム津山構想!ぶちおもしろいけん津山に来てみんちやい!」
- 「津山まちじゅうまるごと博物館構想!みんな見んちやい来てみんちやい わっしょい津山」
- サブタイトルは決めてしまわず進化していくものでもよいのでは。構想のフェーズによって中身を変えていけばいい。
- シンプルな言葉で、やることがパッとわかるものがいい。
- 中の人と外の人と一緒にアクションしていくことの伝わるようなワードを入れたい。
- 「新しい歴史を見に来ませんか?」「すごい歴史を見に来ませんか?」といったキャッチフレーズ+構想タイトル+フェーズごとのサブタイトルという組み立てでもよいかも。
- タイトルとキャッチを一体化させてもよい。例えば「まちを生き、未来につなぐ津山フィールドミュージアム」。
- 「…津山を目指して」。いろんなものがあるから津山を目指して来てみてというイメージ。

参加者からの感想

[1. 全体を通じての感想]

「自らが参画するという思いが持てる。」「自分ごととしてとらえることができる。」「多様な意見に触れることができる。」「既成概念を取り払い限界を超えることができる。」「津山を自らがデザインすることができる。」「ユニークになれる。」「柔軟になれる。」「住民との交流ができる。」「ネットワークを構築できる。」「論理的に考えることができる。」「思わぬ考えにたどり付ける。」「津山のことを知ることができる。」「津山のことを深く考えることができる。」

[2. ひとこと感想]

「おもしろかった。思ったことをなんでも言うということが素晴らしいかったし、言っていい雰囲気を市の方が作ってくださったのもよかったです。」「津山をよくしたいという思いは自分も市の方も同じなので、よくするために意見を聞いたなら取り入れてほしいと思う。」「4回参加してこれだけ案を出してきたので、作り上げるところまで参加したいと感じた。」「いろいろなことを知れてよかったです。けっこう奇抜な意見も出したり、堅苦しくならないように使ってほしい。大変な作業だと思うが楽しい構想になってほしい。」「行政だからできることも、民間でないとできないことも両方あるので、垣根を作らず協力しながら楽しくできたらいい。」「定量的な効果だけでなく、定性的な効果を長い目で見て育てたい。」「共感の輪を広げ、当事者ではなくても関心をもっている人を絶やさず育てていけるようなコンソーシアムができるといい。」「これからどのように進めていくのか興味がある。」「構想を見てかなり堅いという印象をもった。もうちょっとスピード感をもって、気軽にやれるところから小さく積み上げていけばいいのでは。」「今後、自分もなにか貢献できることがあれば積極的にやっていきたい。」「長い時間たくさん的人が話し合ってきたので、どれに決まっても文句はない。」「これが正解だと決めてスタートすることはできないので、やりながら軌道修正しつつ、気軽に進めていけるといい。」

参加者からのコメント

Q1. 市民懇談会に参加してどう思いましたか。

Q2. 今回のような市民参画による策定方法についてどう思いますか。

Q3. 今後、どんな津山になってほしいですか。

A1. 「津山まちじゅう博物館構想」市民懇談会に初めて参加しましたが、今まで接することのなかった方と接し、ふだんあまり考えない点を掘り起こす事ができるようなワークショップ方式の意見交換がそんなに負担なく気軽にかかわってよかったです。このような自然な形で自由に意見を出し合うことは意味があり大切なことを感じました。また、各テーブルに職員の方が入りとても内容の濃い話し合いになったと思います。自分の価値観とは真逆な意見もあれば、私自身が日々感じている地域の課題が同じであったりと、視野が広くなり地域の事をもっと考えていくことを思いました。子供達の為、自分の為だと改めて思いました。

A2. 先ずは市民がやること、行政がやること、を明確に役割分担を示す必要があるかなと。今後は様々な層の人の意見を取り入れられるようにする仕組づくりや、懇談会以外に気づいた点などをやりとりできる「津山まちじゅう博物館構想」専用ツールがあつたら良いなと思いました。また、その意見がどのように反映されたのかを分かりやすく示すスピード感も大事かなと思っています。

A3. 行政に「してください」と言うのではなく、地域から「こうしよう」と言う形で「津山まちじゅう博物館構想」に採用された案をみんなで作っていくことが本当に実現できたら、面白いと思います。



垂井美由紀さん
〔自営業(移住者)〕

A1. 津山市のまちづくりに対するやる気を感じることができました。構想の策定作業も、行政が市民と一緒にになって進めていくことを思っています。また、懇談会の回数を重ねる中で1つ気づいたこととして、行政と民間では、まちづくりに対する考え方や、まちが抱える課題の捉え方が違うように思いました。

A2. 市民を巻き込んで策定することには大賛成です。懇談会を通じて思ったのですが、市役所の方と一般市民では、まちの課題の感じ方やまちづくりに対する考え方方が違うように思っています。このような構想策定の際には、多くの人に見てもらって、もっと一般市民の意見を取り入れた方がいいと思います。策定するのは市役所でいいと思いますが、市民からもたくさんアイデアをもらったらいいと思います。何より、まちの課題は行政も市民も一緒に考えた方がいいと思うので。

A3. 津山に住み暮らす人が愛せる津山、誇れる津山になってほしいです。また、活気あふれる津山になってほしいと思います。自分も津山のまちが好きです。自分を感じるように、子どもたちや、これから産まれてくるまだ見ぬ未来の子どもたちも、津山に生まれて、過ごせてよかったと思えるような津山になってほしいと思います。



大倉俊輔さん
〔会社員〕

A1. 市の構想策定に向けた懇談会に参加できてよかったです。自分にとっても勉強になりました。市長を始め、津山市がどんなことを考えていて、どんなまちづくりをしようとしているかということが知ることができたり、懇談会に参加された他の皆さんも、津山がこうなればいいのにということを考えていることを知ることができてよかったです。改めて、津山のまちづくりはこれからだなと思いました。

A2. 自分たちの意見が構想にどのように反映されているかわかりにくかったので、もう何回か懇談会を開催して、自分たちの話を振り返しながら構想内容を見る機会があつてもよかったです。が、今回のように構想策定にあたって、市民が参加して直接意見を言える機会をもつてもらうことはよかったです。無作為抽出によってメンバーを募集されていたこともあり、本当にいろんな立場の考え方を聞くことができたように思いました。

A3. 若者が過ごしやすい街になってほしいと思います。自分としては、今のまちづくりは若い方向けというよりも、もう少し上の世代の方向けに行っているようなイメージがあります。他の自治体で有効だと思われるような施策も積極的に取り入れていってもらえるような津山になってほしいと思います。今回のまちじゅう博物館構想のもと、今あるものを活かして、今の時代に合った施策を実施して、自分たちよりもさらに若い世代に津山の魅力が引き継がれるような津山になってほしいと思います。



福島翔吾さん
〔会社員〕

A1. 懇談会の中で、社会人の皆さんとのいろんな考え方に対することで、自分の考え方方が大きく広がったように感じました。また、津山のことを考える機会になりました。一緒に懇談会に参加した皆さんと同じように、自分も津山愛が深めていかれたらという気持ちが出てきたように思います。今回、懇談会に参加した経験を今後の学生生活に活かしていきたいと思います。

A2. 実際に自分と同世代の方の考え方だけでなく、年代や住んでいる地域など、いろんな視点での話を聞けたことで、津山に対する思いを持った方が多いということを改めて感じました。自分もそこに参加して、まちのこと、津山のことを自分事としてとらえることができたように思います。

A3. 県外など、他の地域の人に津山のことを知ってもらって、来てもらうということも大事だと思いますが、私としては、住んでいる人が津山のことをもっと知って、そして、もっと好きになってくれたらいいなと思います。そんな津山になってほしいと思います。



杉元佑奈さん
〔美作大学学生〕

|| 有識者会議実施結果報告

① 開催日時等

回数	日にち	時間	場所
第1回	令和4年9月1日(木)	10時～12時	第2委員会室
第2回	令和4年11月7日(月)	13時～15時	第2委員会室
第3回	令和5年2月13日(月)	9時～11時	第3委員会室

② 有識者会議委員(敬称略、50音順)

分野	団体名	役職	氏名
まちづくり	早稲田大学社会科学部(津山市みらい戦略ディレクター)	学部長	早田 宰(会長)
観光	岡山理科大学工学部建築学科	准教授	八百板 季穂(副会長)
まちづくり	環太平洋大学	副学長	阿部 宏史
文化	山陽新聞津山支社	部長	岩崎 充宏
観光	芸術文化観光専門職大学	教授	大社 充
地域代表	津山市観光協会	会長	松岡 裕司
地域代表	津山商工会議所	会頭	松田 欣也

③ 有識者会議の役割

まちづくり、観光、文化の有識者や、地域の代表により構成し、専門的な知見をもとに構想に必要な考え方、あり方について論議し、構想に反映する。

④ 協議結果

第1回 テーマ① まちじゅう博物館構想について

- この有識者会議で、なにを話し合えばいいのかが明確でない。
- 議論の前に全員の共通認識がないといけない。たたき台がほしい。
- 構想を推進することで、なにを達成したいのかわからない。ゴールが見えない。
- 漠然と集まって話をするだけでは意味がない。成果につながる議論を早く進めなくてはならない。
- どんな目的でなにをやるのか、もっと広く市民に「見える化」してほしい。
- 結局、津山は何をするまちなのか?たずねても答えれる人がいない。
- 学び、洋学、蘭学のあるまちならではのことができるのでは。
- 何が決まったか、なんの方向性にしようとしたのか?市として検討した内容は?

テーマ② 住民参画のあり方

- 取り組みのゴールは若い人が住み続ける持続可能なまちになること。これから津山に住むのは若い人なので、若い人の意見が反映されるものでなくてはならない。
- 「学芸員づくり」を最終目標とすることには違和感がある。その前にまず、小中高生に「つやま検定」に取り組ませるなど、若い世代に地域について教えることから始めてもらいたい。
- 学芸員づくりについても、行政主導になると市民はついて来ない。萩市のように、市民の中から自主的な活動がたくさん出てくるような土壌を作ること。これが行政の役割。
- つやま検定の子ども版をやるといい。子どものころ地域について学んだ記憶が大人になって蘇り、魅力を再認識して津山に帰ってきて、まちづくりに参加してくれることが一番いい。

テーマ③ 他の計画との関係

- 「津山市文化財保存活用地域計画」で資産の棚卸しは既にできているので、それをどう活用するかを話し合いたい。

テーマ④ 構想に盛り込むあるいは修正すべき内容

- 伝建地区があるというだけでは他と差別化できない。そこにストーリーがあれば、津山に来たいと思ってもらえる。
- 「津山市文化財保存活用地域計画」で、すでに12のストーリーが作られている。これを市民に議論してもらうことから始めるといいのでは。ストーリーを辿るルートや関連資産などのマッピングもされているはず。
- 学芸員という言葉は専門職的なイメージが強いので、変えた方がいい。
- カーポンニュートラル、地域循環共生圏などについても構想に盛り込んだらどうか。
- 海外ではサステナブルツーリズムへの感度は非常に高い。具体的な取り組みを構想に落とし込めば、インバウンド客を取り込めるのでは。
- これから博物館のあり方として「フューチャーミュージアム」の考え方方が世界で進んでいる。津山でこれを実現できればよい。

第2回 テーマ 津山まちじゅう博物館構想案について

- 津山らしさとは何ですか？
- そもそも博物館構想の目的は？
- 構想なのだから、どこかの自治体で策定したものの焼き増しではなく、津山らしさを表現したうきうきわくわくするようなものにするべき。
- 同じことを表現を言い換えて記述しているのでわかりにくい。もっと整理すべき。
- 具体性がない。何をいつまでにどうやってどこまでやるのか？その結果、どうなるのか？が明確でない。
- まちじゅう博物館構想という文言がわかりにくいで、他のネーミングは検討できないか？屋根のない博物館というとまだわかりやすいが……。

第3回 テーマ① 津山まちじゅう博物館構想について

- 具体的にいつまでになにをするのかが見えない。そこを示してほしい。
- 住民への押し付けないという点は共感するが、行政が責任を放棄するようなことになってはいけない。
- 市民の活動を行政がサポートするという立場とはいえ、市民の意見を拾ってばかりでは前に進まない。行政としてどうしていくのか、リーダーシップを取ることが必要。
- PDCAとよく聞くが、PlanばかりでDoがないことが多い。具体性のない構想を見せて議論してくださいと言っても、場当たり的な思いつきの案しか出ない。
- まず全体の構想を描けたことが成果。想定される具体的な施策と効果まで示され、現時点では充分だと思う。
- 行政が事業計画を作っていくなりこれをやりますというのではなく、こんな構想を描きましたがどうでしょうか、じゃあこれからどんなことをしましょうか、という住民とのキャッチボールが必要。
- 人づくりが一番難しい。ボランティアガイドなども、人によって説明がバラバラになってはいけないので、個人任せでなく組織的につきつかりやらないといけない。
- 「地域経済の活性化」はやや唐突感がある。「地域活力の向上」に修正すべき。

テーマ② コンソーシアムについて

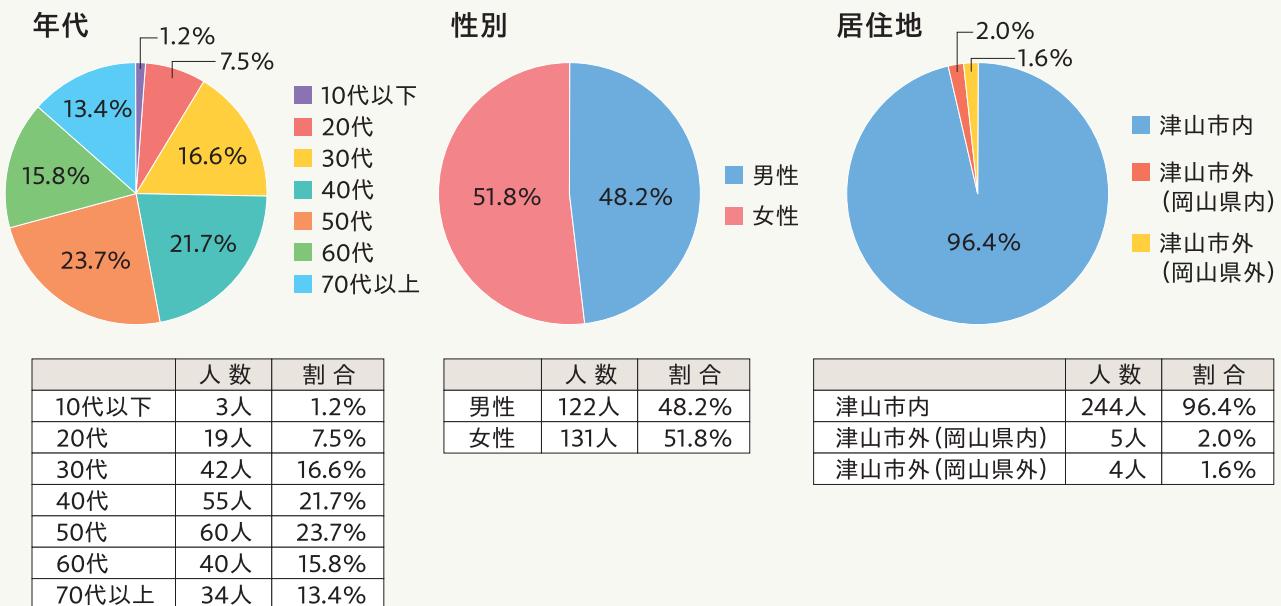
- コンソーシアムを外部に切り出すということであるが、組織横断的な取組も多いのだからもっと行政主導でやるべきでは。
- 行政が具体的な施策を出したうえで、施策ごとに事業体を切り出すならよいが、なにも決まっていない段階で市民に考えてくださいと言っても、思いつきレベルの意見しか出ないのでないか。市民に意見を求めるタイミングと参画しやすい環境づくりが必要。
- 住民に任せた方がフレキシブルなアイデアが出て、スピーディかつローコストに進められるので、今はそういう流れに切り替わっている。ただし多方面との調整が必要なので、行政は後ろでしっかり舵取りしてほしい。

津山まちじゅう博物館構想に関するアンケート調査報告

3 調査実施期間

令和4年10月21日～12月20日

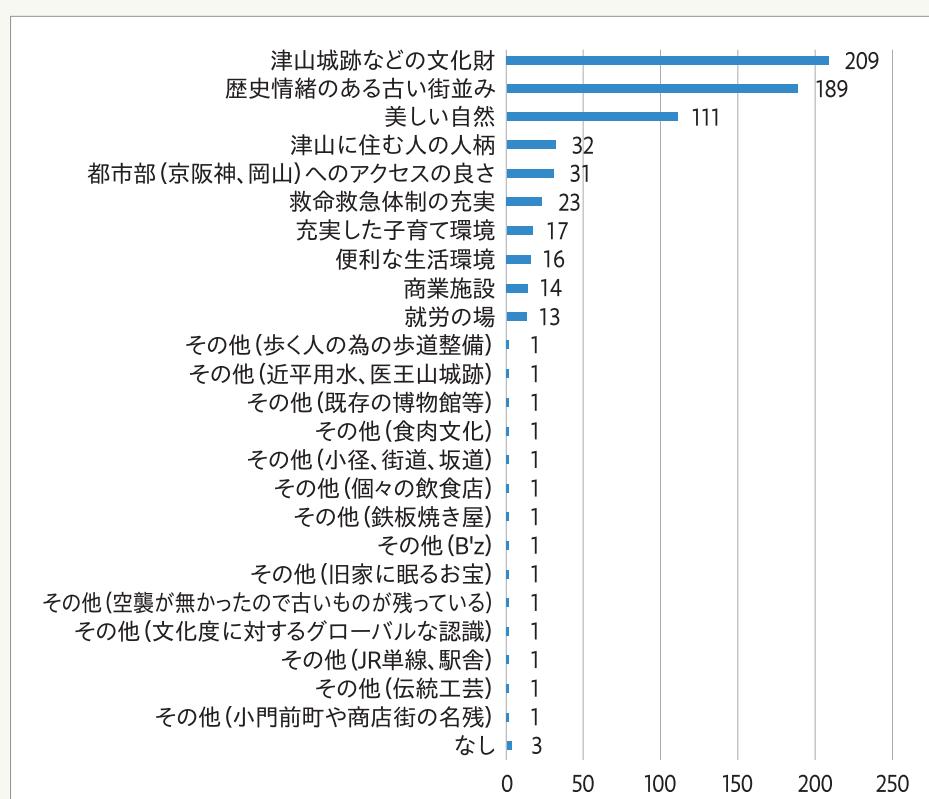
3 回答者属性 (全回答数:253件)



質問1

津山市全体を「屋根のない博物館」ととらえた場合、
津山市の魅力となるものはなんだと思いますか？

(複数選択可)【回答数:253件】



全回答者のうち82%の人が「津山城跡などの文化財」と回答した。続いて、75%の人が「歴史情緒のある古い街並み」と回答した。

また、「美しい自然」という回答も全体の44%となった。

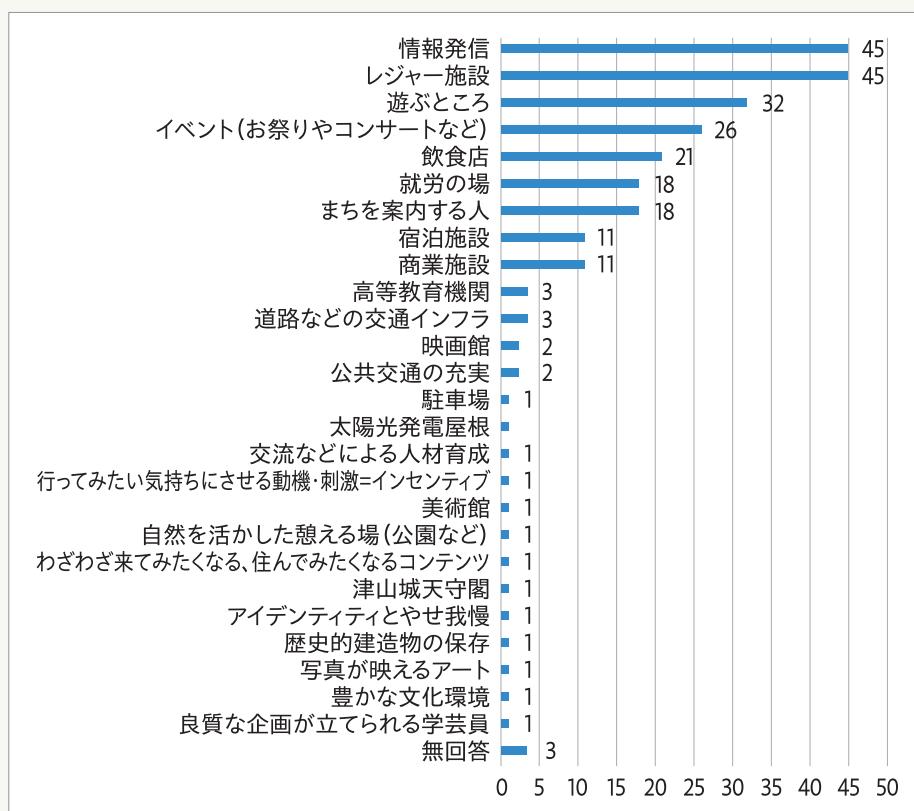
一方、「救命救急体制の充実」、「充実した子育て環境」、「便利な生活環境」、「商業施設」、「就労の場」という回答は、それぞれ全体回答数の10%未満となった。

質問2

津山市全体を「屋根のない博物館」ととらえた時、よりよい博物館となるために

必要なものはなんだと思いますか？

(いずれか1つ)【回答数:253件】



「情報発信」「レジャー施設」という回答が最も多く、次いで、「遊ぶところ」「イベント」「飲食店」などの順となっている。その他、「映画館」「駐車場」「美術館」「天守閣」「写真が映えるアート」「良質な企画が立てられる学芸員」という回答もあった。

質問3

津山市はどんなまちになってほしいですか？

【回答数:218件】

年代・性別を通じて、「活気のある町」「人が集まる町」という回答が多かった。また、20代以下の回答には、「商業施設などが充実した町」という回答が多く、30代、40代では、「子育てしやすい」、「安全に歩ける」、「子どもや高齢者、障がい者など弱者にやさしい町」という回答も多かった。40代以上からは、「ゴミなどがない美しい町」、「城下町としての風情のある町」、「観光客が訪れる町」の他、「若者が帰ってくる町」という回答が多数あった。<以下、回答を抜粋して記載>

年代	男 性	女 性
20代 以下	<ul style="list-style-type: none"> ●する事が沢山あり、活気溢れるまち ●また来たいと思ってもらえるまち ●全国から人が集まるような活気あるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ●活気あふれ若者も楽しめるまち ●子育てからご老人まで様々な世代にとって充実した制度や施設が整っているまち ●歩いて楽しい、また来たい、見たいと思うような町
30代	<ul style="list-style-type: none"> ●活気ある楽しい津山 ●住みやすいまち ●人がたくさん行き来するまち 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てしやすい街 ●観光施設やレジャー施設があり、子ども～大人まで楽しめる、活気があるまち ●若い人が帰ってきたくなる魅力ある街
40代	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもや障がいのある人を大切にする街 ●自然豊かで穏やかに暮らせる街、外に行つても誇りの持てる街 ●都会に出た津山の若者が戻ってきやすい街 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもとお年寄りの住みやすいまち ●若い人が住みたいと思える街 ●津山市のこれが好き!とはっきり答えられるものがあるような街

50代	<ul style="list-style-type: none"> お年寄りに優しい、弱者に優しいまち 観光客がリピーターになる魅力的なまち 帰ってきたい町 	<ul style="list-style-type: none"> 移住者など他所者への温かい支援があり、人が定住するまち 観光する方が、安心して訪れ、また来たいと思うようなまち 高齢者が住みやすい街
60代	<ul style="list-style-type: none"> 明るい雰囲気で活気のあるまち 車の運転しなくても移動できる町 人を大切にし、お互いが助けあえる町 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史情緒を残しながらも、若い人が活躍できる街 一度は訪れてみたい、触れ合ってみたいと思えるような、魅了のある、活気のある街 高齢になっても安心して暮らせる町
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代が安心して子どもを生み育てることができるまち 充実した生活と「文人」的な文化生活が営める市 時々の政治や経済に右往左往しない100年都市 	<ul style="list-style-type: none"> 文化レベルの薫り高い街 弱者を取りこぼさないまち 観光に力を入れたまち

質問4

津山市全体を「屋根のない博物館」としてとらえた時、よりよい博物館にするために、
皆さんならどのような行動をしますか？

【回答数：207件】

年代・性別を通じて「身近な人に情報を伝える」という回答が多かった。その他の回答として、「町をきれいにする」、「運転や人と接する時のマナーに気をつける」、「イベントに参加する」、「地域のことを知る」という回答が見られた。<以下、回答を抜粋して記載>

年代	男性	女性
20代以下	<ul style="list-style-type: none"> 景観を保存できるように、火災などを起こさないように心がける 地元で開かれるイベントの情報を発信する 博物館の周りなど、環境美化につとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする 今ある観光資源を自分が良く知る 近所の史跡を学び、散歩中に声をかけられても答えられるようにする
30代	<ul style="list-style-type: none"> ゴミが落ちてない綺麗な街にする為の清掃活動 美しい立ち居振る舞いをする（当たり前の交通マナー、公共空間の利用など） 津山城の再建に向けて動く 	<ul style="list-style-type: none"> 街をきれいにする 楽しいイベントをする 津山の街並みや文化を紹介、案内できるようにしていきたい
40代	<ul style="list-style-type: none"> モラルを持った行動をとる 津山まつりのお神輿をアピールを使う 博物館のコンテンツとなりうるものを見せたり触れさせたりして伝える 	<ul style="list-style-type: none"> マナーアップ、運転マナーや、子どもたちに接する態度など 町をキレイにする為の活動として、ゴミ拾いなどを行う 歴史の説明ができるガイドになりたいと思う
50代	<ul style="list-style-type: none"> 街の歴史や文化の情報を発信する 情報発信とイベントへの参加 津山城の再建「天守閣」の働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等で津山の良いところを発信する まずは自分が津山を知る事、そして他の地域の方に知らせ、誘う 古いものを大切に、修復しながら使っていきたい
60代以上	<ul style="list-style-type: none"> 市内の空き家の整備を行う 歴史的な街角や風景をSNSやYouTube等で発信している だれにでも自分のまちの良いところの説明ができるようになる 子ども向けに自分の得意分野の指導などを行う。森林インストラクター、木工加工など 	<ul style="list-style-type: none"> イベントなどがある場合、事前研修などに参加し、津山市の事を再確認し、これを踏まえた上で地域に拡散して、イベント等の地域の参加を促したい 歩くときは挨拶、車の時は歩行者優先→思いやりのある行動をとる 住民個人個人が暮らしやすく気持ち良く過ごせるように環境整備に努める

質問5

「津山まちじゅう博物館構想」の他、津山市に対するお考えや要望などを
ご自由に記入してください。

【回答数:189件】

10代、20代、30代から「映画館、商業施設、レジャー施設を作ってほしい」という意見が多く、また、30代、40代からは「子どもや子どもと一緒に楽しめるイベントの開催」や「年中ファミリーで楽しめる場所の整備」などの意見が多かった。その他、情報発信に関すること、市内の移動の利便性向上に関するここと、施設や街並みの整備に関することなど、全年代から施策・事業に関する多様な意見があった。

<以下、回答を抜粋して記載>

年代	男 性
20代 以下	<ul style="list-style-type: none"> ● 街灯が少ない場所が多いので増やしていただきたい。 ● 公共交通機関の本数が増えたらより津山を観光しやすくなるのではないかでしょうか。 ● コストコや大型商業施設、温泉施設、映画館など娯楽施設の誘致、建設をしてほしい。
	<p>女 性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 映画館(シネマコンプレックス)とアニメイトがほしい。 ● 津山市全体に人が集まるように、中国自動車道の無料化及び岡山空港道路の早期完成・整備を早急にしてほしい。
年代	男 性
30代	<ul style="list-style-type: none"> ● 勝北や加茂などの津山市中心部ではないところにも目を向けてほしい。 ● (まちじゅう博物館構想は)津山の町を知つてもらうのに良いと思う、これをきっかけに観光資源に対して住民たちも関心を持てれば、自分の町の歴史や特色に気づけると思う、また、学生の教育でも自分たちの町について教えていけば、自然と津山の歴史などを理解出来て、観光案内などにも繋がると思う。 ● 意欲のある人やモノ・資源に予算を投じてほしい。 ● (まちじゅう博物館構想は)面白い取組だと思う。もっと発信、住んでて自慢したくなるような、話題性や、他の市町村の真似じゃない事を町をあげてやってほしい。
	<p>女 性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クリエイティブなことができるのに色々な理由で一步を踏み出せない若者が潜在的にたくさん居ると思います。津山で挑戦しやすい環境が有れば良いのではないかと個人的には思います。所々にある廃屋も気になります。 ● 結婚や育児、家庭に対する補助が少なすぎるので若い人が減っていくと思う。最近結婚したばかりだが、今後育児をするにあたって不安が大きい。若い世代が今後の津山市をつくっていくと思うので、そちらにもう少し力を入れてほしい。 ● 「ふーん、そんなイベントがあるんだー、へえ」で終わらないように、各小学校や保育園や中学校、高校…企業や団体…津山の人達を巻き込んで、みんなで参加する事を楽しめるようにしたら素敵ですね。
年代	男 性
40代	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心部と周辺部の一体感がない。地元の人が地元の魅力に気づいてない(知らない)。交通の便が悪すぎる。 ● 空き家となっている町家や武家屋敷などを活用できる施設としてもらいたい。 ● まちじゅう博物館などの取組は、行政主導で実施しても長続きしない。地域と一体となった取組に繋げてほしい。
	<p>女 性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 津山駅前に商業施設をつくり賑やかにしてほしいです。JRを利用する人が減っていますが、やはり駅はまちの顔なので駅に人が集まる工夫があればと思います。駅はきれいになったのに駅のホームが古いのが残念です。 ● 今は若者の発信力は素晴らしい、夏の衆楽公園のイルミネーションなど、津山市民は少し割引ありましたが、学生には少し入場料が高く、せっかくSNS等で宣伝してもらえる機会なのにもったいないと感じました。津山市民もしくは津山市の学生と確認できてインスタやTwitterに上げたのが帰りに確認できたら入場料の半分のクオカードがもらえる、鶴山公園なら次回の入園券など渡して、来園者数を上げてついでに宣伝もしてもらうなど、柔軟に若者を取り込んでいけばと思ったりします。 ● 田舎だからこそできることをしてほしい。例えばクリーンエネルギー。バイオマス発電なら資源はたくさんある。例えば施設。一つの目的を達成するための施設では限られた人しか使わない。美術館や博物館、よほど魅力がないとリピートして訪れない。多目的に使える施設の建設を望みます。(鳥取の梨っ子館みたいな)あと、宣伝力不足だと思います。

40代	以前よりはすごく頑張っていらっしゃるのだと知っていますが。いいイベントでも後から新聞で知ったりすることも。もったいないです。
年代	男 性
50代	<ul style="list-style-type: none"> ●もっと市民の意見を聞く場を設けてもらいたい。 ●津山じゃないとできないような催しやイベントを、もっともっと外へアピールして、市民みんなと観光客と一緒に楽しめる街づくり。来て良かった、また来てみたい、と言われるような街の環境づくり。商店街や津山市内の道路整備、津山城の再建などに税金を使ってほしい。 ●体験型観光の推進。見て回る観光だけでは限界があります。地元の人と交流できたり、農業や林業を体験できたり、または、酒蔵や家具工房など専門性の高い職種を体験できるなどツアーノード体験型の観光を推進すべきではないかと思います。
	女 性
	<ul style="list-style-type: none"> ●津山はWi-Fiスポットが少なすぎます。また、街を歩くにも、観光スポット、飲食店、特産品店が離れすぎて歩きづらいです。しがらみに凝り固められることなく、犬山商店街のような活気を溢れさせてほしいです。 ●津山の核になる物を作る。津山と言えば…を作る。 ●洋学資料館や、津山自然のふしき館、津山郷土博物館など、自慢できるものが多いが、宣伝が足りないと思います。市全体で楽しむことも考えて、バスの交通、観光タクシー、食事どころの充実やトイレ整備、駅前商店街の活性化など、沢山の課題があると思います。
年代	男 性
60代	<ul style="list-style-type: none"> ●もっと多くの観光客に来ていただける魅力的な町になってもらいたい。 ●市外の人を案内するときに紹介できるように、ここにはこんな話が残っているなど、小路や街角、歴史的建造物などに古くから残っている話やストーリーを発掘して、市民なら誰でも紹介できるようにしてほしい。 ●津山高専を科学技術大学に昇格させて、留学生を増やすことで津山の魅力を世界に発信し、インバウンドに繋げる観光都市に発展できればと。
	女 性
	<ul style="list-style-type: none"> ●下手に都会化せずに、のんびり過ごしたい。 ●津山駅から吉井川の景観を生かして、憩いの場所・食の拠点を作つてほしいと思います。 ●若い方も津山の魅力を再確認してもらい、「帰つて来たい。遊ぶなら津山!」と言える街づくりを期待します。 ●映画館とかもっと皆が集まりやすい場所を増やしてほしい。高齢者の運転も危なくなってきたのですが、交通の便が悪いのでなかなか免許返納もせざる運転している。
年代	男 性
70代以上	<ul style="list-style-type: none"> ●津山は、鶴山公園、城東、城西など見学する所は沢山ありますが、他県ではそういう場所の見学が終わると土産物や食堂が並んで有るから買って帰り食べて帰ります。津山は少ないと思います。観光客が増えてもよいのですが何かが不足しているかもしれないです。 ●津山の発展を願う思いは十分に感じられるが、成果を早急に期待する行動が前面に出過ぎているくらいがある。日本全国通有の極めて標準的地方都市であるが故に、課題も多いのであろうが、的確な現状認識に基づく地に足のついた中長期的市民構想をデザインすることが期待される。城下中心部を挟む出雲街道の東西に選定された伝統的建造物群を活かした、近世と近代を跨ぐ時間軸によるまちづくりを目指しているのであれば、鶴山城を俯瞰する景観スポットを選定した上で景観条例を制定することで、津山盆地の文化的景観の創生活用と人育てを推進する手法も考えられる。 ●津山線のスピードアップ。
	女 性
	<ul style="list-style-type: none"> ●道路整備が不十分、舗装、標識、白線、除草などなど目に余る危機的状況である。また、蘭学に固執せずに田町武家屋敷の整備や東西寺町の整備など喫緊の課題が多い。さらに言えば宮川の河川整備も忘れてはならない。 ●休日は若者中心、平日は高齢者とごんごバスの運行を工夫する。例えば市内観光バス専用車にする等、アクセスに配慮して誰もが気軽に外出できたら視野が拡がると思います。 ●高齢者から交通事情が悪く外出が儘ならないと聞きます。買い物やレジャーを楽しめる街に。

アンケートまとめ

質問1「津山市全体を「屋根のない博物館」ととらえた場合、津山市の魅力となるものはなんだと思うか」への回答から、市内在住の方を中心に多数の人が、文化財や歴史情緒を感じさせるものが博物館構想の魅力となり得ると思っているように考えられる。

質問2「津山市全体を「屋根のない博物館」ととらえた時、よりよい博物館となるために必要なものはなんだと思うか」への回答から、「情報発信」が一番重要であるものの、「レジャー施設」「遊ぶところ」「飲食店」「映画館」「駐車場」「美術館」「天守閣」「写真が映えるアート」など、魅力ある施設の整備が求められていると考えられる。

質問3「津山市はどんな街になってほしいか」という問い合わせに対しては、年代・性別を通じて、「活気のある町」「人が集まる町」という回答が多く、現在の津山市には活気がないと感じる市民が多いことがうかがえる。また、20代以下の回答には、「商業施設などが充実した町」という回答も多かった。30代、40代では、「子育てしやすい」、「安全に歩ける」、「子どもや高齢者、障がい者など弱者にやさしい町」という回答も多かった。40代以上からは、「ゴミなどがない美しい町」、「城下町としての風情のある町」、「観光客が訪れる町」の他、「若者が帰ってくる町」という回答が多かった。

質問4「津山市を屋根のない博物館としてとらえた時に、よりよい博物館にするためにどのような行動をするか?」という問い合わせに対しては、年代・性別を通じて「身近な人に情報を伝える」という回答が多かった。その他の回答として、「町をきれいにする」、「運転や人と接する時のマナーに気をつける」、「イベントに参加する」、「地域のことを知る」という回答が見られた。年代、性別を越えて同様の回答が多かったことから、機会があれば意識を変えたり、行動を起こしたりする市民は多いと思われる。

質問5での「津山市に対する考え方や要望」についての自由記述に対する回答としては、10代、20代、30代から「映画館、商業施設、レジャー施設を作ってほしい」という意見が多く、30代、40代からは「子どもや子どもと一緒に楽しめるイベントの開催」や、「年中ファミリーで楽しめる場所の整備」を求める意見が多かった。その他、「シャトルバスの運行」、「市民参加型の企画運営」、「市民や事業者による情報発信に対するインセンティブの付与」、「歩道の整備」、「ごんごバスの市内観光利用化」、「多目的施設の建設」、「古い空き家や武家屋敷、歴史文化施設の活用」、「津山城がどこからでも見えるような町並の整備」など、全年代から施策・事業に関する多様な意見があった。また、「ホテルやボランティアガイドと連携した観光客の案内誘導プランの作成」や「市民なら誰でも観光案内ができるようにするための取組」、「見所の見学が終わった後に土産物や飲食店への誘導ができるようなルート設定」など市民や事業者と連携した観光誘客プランの作成についての意見があった。

なお、これらの施策・事業の実施に向け、「市民への情報発信とともに市民からの情報収集が必要」という意見もあり、津山まちじゅう博物館構想の取組を推進していくにあたっては、引き続き、市民懇談会や市民アンケートを実施するなど、積極的に意見を聴取し、その意見を施策・事業に反映させていく仕組づくりが必要と考えられる。

甲南大学FW実施結果報告

① 実施日

令和4年9月15日(木)～16日(金)

② 参加者

甲南大学マネジメント創造学部学生8名 指導教官：甲南大学名誉教授 佐藤治正

③ 実施手法

甲南大学の学生が、城下地区と城東地区を散策し感じた率直な感想、課題や必要な施策などを、ワークショップ形式で論議し、提言にまとめた。

④ 本取組の意義

- (1)市外在住の若者の率直な意見を聴取することができる。
- (2)若者の視点でまちじゅう博物館構想をとらえることができる。
- (3)津山市の持つ課題をつかむことができる。
- (4)対策を検討する材料を集めることができる。

⑤ 討議結果

[1] 散策後の率直な感想は？

1 班	2 班
<ul style="list-style-type: none">●駐車場が少ない。●昔ながらの雰囲気がある。●バスが通ると狭くて怖い。●津山城の上り下りがしんどいので、上り切ったところに達成感が得られるものがほしい。●津山城からの景色がきれいだったが、石垣などの説明がないときれいさしかわからぬ。●城東地区の早瀬豆富店の店内がおしゃれで木のにおいかして居心地がよかったです。●城東地区的道が狭い。●城西のイベントのポスターが貼ってあったが、それだけではわかりにくい。●京都のように市全体が観光地となるように物を茶色に統一するといいと思った。●昔ながらの雰囲気のある道や建物がたくさんあった。	<ul style="list-style-type: none">●城東は道が狭いのでバスは別の道を通った方がよい。●人が少なくもう少しにぎわってほしい。●飲食店が少ない。●城東、城西の道の感じを統一した方がいいのではないか。●津山城の頂に屋台などを出したらしい。●お城の説明があったので魅力的に感じたが、なかつたらたださびれた城という感じになってしまう。●お手洗いがあって観光がしやすい。●自然豊かで居心地が良い。●江戸のまちがそのまま残っていて伝統的なことに魅力を感じた。●自動販売機の茶色が街並みの邪魔をせず溶け込んでいた。●城西地区は道が広く車が比較的通りやすい。

[2] 津山の魅力はなんだと思いますか？

1 班	2 班
<ul style="list-style-type: none">●重要伝統的建造物群保存地区になっている。●城跡があること。●城下町であること。●津山城からの景色。●学校や遊べる場所がたくさんあった。●学校がきれい。(津山高校本館)●自然がたくさんある。●チェーン店などのお店がたくさんある。	<ul style="list-style-type: none">●緑が多くて自然が豊か。●津山牛の干し肉の味がしっかりしていた。●農家が多くてお米、野菜が新鮮。●のびのび生活できる。●自分が住んでいる地域と同じくらいスーパーなどがあり暮らしやすそう。●お城跡があり他の地域と異なる。●時代の流れを感じられる。

<ul style="list-style-type: none"> ●空き家がたくさんあって起業しやすそう。 ●さくらがきれい。 ●都会に疲れた人が人の温かさ、自然の癒しを感じられる。 ●自然を知ることができる。 ●季節ごとにイベントがあり、住民以外の他県や他の町の人も楽しむことができる。 ●かっぱをモチーフにしたものがたくさんある。 ●住民同士のつながりが濃い。 ●ご飯がおいしい。 ●宿泊施設がたくさんある。 ●昔ながらの雰囲気が残る場所が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統的な家から歴史を感じられる。 ●異世界への入り口のような感じ。 ●お城から城下を一望できる。 ●山城や古墳が多いので観光のサテライトで使える。 ●城東の江戸の街並みと道の雰囲気が非日常なところ。 ●津山市民が親切。 ●方言によって人のやわらかさを感じる。 ●ジュースなどの物価が割と安い。
---	--

[3] まちじゅう博物館構想を具現化するために必要なものは？

1 班	2 班
<ul style="list-style-type: none"> ●インスタ映えスポット。 ●若い子向けのスポット。 ●つっこんだり人に見せたくなるもの。(城下町の豆腐屋さん、お城のハートマークの石) ●インパクトが足りない。 ●学生向けのカフェやお店。 ●宿泊施設。 ●魅力を体験できる場所。 ●飲食店。 ●住民の理解。 ●地域の人が交流できる場所。 ●まちの説明文。 ●ゆるキャラ。 ●城下町の建物以外に津山市を象徴できるもの。 ●道幅を広げる。 ●環境整備(道、駐車場)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の協力。 ●住民と住民の交流。 ●担い手。 ●出店がもう少しほしい。 ●体験系のアクティビティ。 ●時代にあった服を着れるようにする。(城東=着物、城西=ドレス) ●空き家の活用。 ●インスタスポット。 ●歴史を大人と小中学生など年齢層に分けてわかりやすく説明する。 ●音声ガイド付き観光バス。 ●歴史を紹介するガイド。 ●城と城下町の統一感。 ●江戸の雰囲気。 ●歩いてめぐるには遠すぎる。 ●空き家を新規で会社を建てる人に安く売る。

[4]まとめ(提言)

